

中国人話者の目上への「ほめ」行動について：
中国人大学生を調査対象として

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30386

中国語話者の目上への「ほめ」行動について ——中国人大学生を調査対象者として——¹

人間社会環境研究科 博士前期課程1年 楊 一林²

<概要>

本研究は、中国社会に、目上への「ほめ」行動は実際に行われているかどうか、また、行われているとしたら、どのように行われているのかについて、考察・分析する。また、目上への「ほめ」といっても、その目上との様々な関係によって、その間に生じる「ほめ」行動にも違いが見られることが予想できる。そこで、本研究は、中国の6つの都市（南部、北部それぞれ3都市ずつ）での大学生を対象者としてアンケート調査を実施し、中国語母語話者の目上への「ほめ」行動について、考察を行った。

調査の結果は、以下のようである。

- (1) 相手が目上であっても、「ほめ」行動の使用率は85%を占め、実際によく行われていることがわかった。
- (2) ほめ表現において、「自分に関する言及」より「相手に関する言及」のほうが多く用いられていたことがわかった。
- (3) 「親疎関係」及び「利害・評価関係」により、目上への「ほめ」行動は相違があることが明らかになった。

<キーワード>

ほめ；目上；親疎関係；利害関係；相手・自分に関する言及

¹ 本研究は金沢大学大学院人間社会環境研究科「フィールド・マネージャー養成プログラム」から助成を受けた。これによって、中国での現地調査が可能になった。

² E-mail: yangyilin1020@live.cn

<目次>

1. はじめに
2. 先行研究
3. 調査方法
 - 3.1. 調査対象
 - 3.2. 調査の内容
 - 3.3. 調査分析の方法
4. 結果および考察
 - 4.1. 「ほめ」方法ごとの使用比率
 - 4.2. 親疎・利害関係による「ほめ」行動への影響
5. おわりに

参考文献

1. はじめに

「ほめ」行動とは、相手との円滑な関係を保つために、相手への理解や賛同を表明し、相手を心地よくさせる機能を持つことから、相手に積極的にかかわろうとするポジティブ・ポライトネスの重要なストラテジーの1つと指摘されている (Brown & Levinson, 1987)。異文化間のコミュニケーションだけでなく、同一文化内でも同様であるが、言葉そのものが通じていても、表現方法によって言語効果が異なることが多い。誤解や摩擦を減らし、より円滑なコミュニケーションを目指すためには、実際の言語使用のみならず、その社会の文化や価値観などを理解しあうことも重要である。

本研究の目的は、以下の2点である。

- (1) 中国語母語話者の目上への「ほめ」行動に焦点を当て、その表現方法や表現形式を分析する。
- (2) 中国社会において、人間関係を構築、維持、改善するために、「上下関係」より「親疎関係」及び「利害関係」のほうに注目される傾向があることを明らかにする。

2. 先行研究

この20年間、中国語における「ほめ」行動については数多くの研究がなされてきた。それらの研究は、大きく次の2つのグループに分けることができる。

- (1) 「ほめ」行動の返答に関する研究
- (2) 「ほめ」行動に関する中米対照研究

中国語における「ほめ」行動に関する先行研究のほとんどは、「ほめ」行動の内容、表現形式、返答に焦点をあてた中米の対照研究であり、「ほめ」行動のあり方を大きく捉えるには有益であるといえる。しかし、先行研究の中で、一定の人間関係や場面のもと、一定の意図を表現する際の「ほめ」というように、条件を統制することによる考察はなかった。以下では、従来の研究を分類して紹介した上で、それらの問題点を指摘する。

(A) 張 静 (2008)、石 秀珍 (2010)

「ほめ」行動を社会言語学または言語学の観点から、中国語と英語に

おける「ほめ」の内容、表現や返事について比較を行っている。例えば、「ほめ」の内容に関して、中国人は生まれつきの美しさを客観的にほめるのを好むが、アメリカ人は化粧によって美しくなったところ、あるいは変化した所に注目し、主観的にほめる傾向がある³。また、ほめ表現のバリエーションについて、アメリカ英語に比べて中国語のほうが豊富であり、感情の表現が多く、強調する副詞も多様であることを明らかにした。

(B) 蔣 冰清(2006)、陳 臻渝(2011)

中国語母語話者の「ほめる」という言語行動を究明するために、アンケート調査を行った。その結果、中国語話者の場合は普通、ストレートに人をほめること、またほめの対象別により、人の外見や持ち物といった表向きなものとは比べ、性格といった内面的なものをより重視するという文化的な特徴を指摘した。

(C) 权 立宏(2001)、史 耕山(2005)

「ほめに対する返答」について、談話完成テストまたはアンケート調査を行い、性差に基づいて比較研究を行った。その結果、女性のほうが男性より多く肯定的返答を用いていることが明らかにされた。

(D) 陶 琳(2009)、饶 斌(2009)

「ほめ」に対する返答について、対照言語学の観点から、日本語と中国語または英語と中国語を比較している。例えば、「ほめられたら、中国語話者はほめを否定し、謙遜するのを好む」のような傾向がある。その理由を、中国の伝統文化と結びつけ、分析している⁴。

(A) は「ほめ」行動及びその返答を対照言語学の観点から考察したものである。中国語と英語における「ほめ」行動について、わかりやすくまとめているが、いくつかの問題点もある。たとえば、論文中に具体的な調査方法や分析対象を論じていない点が挙げられる。

(B) は「ほめ」行動を社会言語学または言語学の観点から分析した

³ “天生丽质”从古到今一直是国人对女性美的最高评价。中国人更欣赏自然的美，内在持久的美（張静 2008）。

⁴ 中国社会推崇“自谦”、“尊人”，因此其主要采用不接受策略；而英美国家提倡“个人主义”，人生而平等，“尊人”但不“卑己”等，因此，其主要采用接受策略（饶斌 2009）。

ものである。中国語話者における「ほめる」という言語行動のメカニズムを究明したが、その会話参加者間の人間関係または場面について、十分な配慮をしてなかった点に不備が認められる。

(C)と(D)は「ほめに対する返答」に焦点を絞り、考察を行っている。中国の伝統文化と結びつけ、とても興味深いのが、すべての論文がアンケート調査から得られた結果を中心に分析しているに過ぎず、相互行為という視点からの考察はなされていない。

3. 調査方法

3.1. 調査対象者

<表 1>は調査対象者の情報である。本研究の調査対象者は、中国北部の北京市、天津市、曲阜市にある総合大学の大学生と、中国南部の上海市、南京市、蘇州市にある総合大学の大学生である。調査対象者の総数は、北部が 139 名、南部が 126 名である。外国語学習が調査対象者の言葉遣いに影響を与える可能性があると考え、外国語専門の学生を分析対象者から除外した。それに基づき、有効回答票を抽出し調整後、北部 95 票、南部 88 票、合計 183 票の調査票に対して、分析を行った。

<表 1> 調査対象者の情報

調査地	調査対象者	人数
北京市	北京科術大学	48
天津市	北京科術大学天津学院	46
山東省	曲阜師範大学	45
江蘇省	南京大学	40
江蘇省	蘇州大学	41
上海市	華東師範大学	45

3.2. 調査の内容

記述式アンケート調査によって、大学生が大学教員に対して「ほめ」を意図とした場合の発話を記述させ、その表現方法や表現形式を分析する。また、親疎・利害関係により、大学教員を「親しくて利害のある A 先生」・「親しくて利害のない B 先生」・「親しくなくて利害のある C

先生」・「親しくなくて利害のないD先生」の4タイプに分け、それぞれの特徴の比較も行う。なお、ここで言う「利害」とは成績評価の有無のことである。

また、「ほめ」の対象について、大野（2009）、金（2005）に基づき、「専門」・「持ち物」・「外見」・「性格・能力」を扱うことにする。

3.3. 調査票の概要

まず、調査協力者の年齢・性別・出身地・現居住地および居住年数を記入してもらう。

次に、アンケート部分では、調査協力者と同姓で40代の教員は親疎・利害関係により、以下のような4名を想定させる。

- A先生→週2、3回会い、気楽に言葉を交わされる
(現在授業を受けている)
- B先生→気楽に言葉を交わされ、過去に授業を受けたことがある
(現在は授業を受けていない)
- C先生→週1回会えるが、気楽に言葉を交わせず
(現在授業を受けている)
- D先生→気楽に言葉を交わせないが、過去に授業を受けたことがある
(現在は授業を受けていない)

この4名の先生に対し、次の4つの場面で気持ちを伝えたい場合、どのように言うか、それぞれの場面を想像しながら、実際に言うように記述してもらう。(何も言えない、もしくは言わない場合があれば、「言えない」ないし「言わない」と回答してもらう。)

- 場面一（専門）：先生の授業がとてもよかったことを伝えたい。
- 場面二（持ち物）：先生の持っているバックが似合っていることを伝えたい。
- 場面三（外見）：先生の新しいヘアスタイルにコメントしたい。
- 場面四（能力）：外国人に道を尋ねられた先生（英語専門ではない）が、流暢な英語で道案内をしていた様子を目撃。その直後、先生と話す機会があり、このことについて何かコメントしたい。

3.3. 調査分析の方法

大野(2009)に基づき、目上に対して「ほめ」の意図を表明する際に、「誰に関する言及なのか」という観点から、先生、自分、第三者、に分ける。それに基づき、アンケート調査票で確認できた「ほめ」の方法を以下のように分類した。

<先生に関する言及>

①評価：「先生は（評価語）である。」という直接的な評価の形式

対象	例文 1-4
専門	老师, 你很不错 (先生、とても素敵です)
持ち物	老师, 很有品位 (先生、センスがありますね)
外見	老师, 您的发型很适合您 (先生、ヘアスタイルがとても似合います)
能力	老师, 好厉害 (先生、すごいですね)

②先生事実：「先生が～した」「先生の～は評価語である」、という現実的で客観的な事実を述べる。

対象	例文 5-8
専門	老师, 您讲的很棒 (先生、素晴らしく仰っています)
持ち物	老师, 您的皮包很给力啊 (先生、あなたのカバンはすごいですね)
外見	老师的发型好酷啊 (先生のヘアスタイルはクールですね)
能力	老师, 您的英语好棒啊 (先生、あなたの英語は素晴らしいですね)

③質問・すすめ： 相手に関する情報要求又は情報提供。

対象	例文 9-12
専門	老师，还有机会再上您的课吗 (先生、あなたの授業はまた受けられますか)
持ち物	您的皮包太好看了，在哪买的 (あなたのカバンはとても綺麗です、どこでお買いましたか)
外見	发型不错，哪里剪的 (ヘアスタイルは素敵です、どこでカットしましたか)
能力	兼职当英语老师多好 (英語の先生に掛け持ちしたらよかったですけど、)

<自分に関する言及>

④自分の事実：

同じ事実でも、自分自身に引き寄せて言及するような形式。

例 13：老师，我从你课中学到了很多东西

(先生、あなたの授業からたくさん学びました)

⑤感情： 自分の感情で、その場その時での気持ち。

例 14：老师你太棒了，简直就是我的偶像

(先生、すごいです、まるで私のアイドルみたいです)

⑥感謝： 自分の感情で、主にその時その場で感じた好悪や感動等。

例 15：谢谢你教给我这么多知识。

(教えてくださって、どうも有り難うございます)

⑦羨望： 相手を羨ましく思うことを表明する行動。

例 16：老师，真羡慕您的英语

(先生、あなたの英語は羨ましいです)

⑧意志： 相手の影響を受け、前向きな決意を表す。

例 17：老师，咱继续努力，你越教越好，我越学越多

(先生、私達一緒に頑張り続けましょう、あなたの教え方がますますよくなり、私の知識がますます多くなります)

⑨依頼：好ましい知識や物事について、できた相手を頼み、実現しようとしている。

例 18： 有不会的问题还要经常麻烦您啊
(分からない問題があれば、お願いしますね)

<第三者に関する言及>

⑩第三者の事実：

先生と自分以外が主語になる場合で、対象が客観的に評価するような形。

例 19： 大家都说您的课很好
(あなたの授業がよかったと皆言っています)

<そのほか>

⑪比較： 同じカテゴリーの物に関して、比べながらそれぞれの特徴を引き出し、言及する。

例 20：老师，我现在的课都听不太懂
(先生、私は今の授業が聞き取れません)

⑫注目： 大事なこと、関心のあるとして、意識を集中し行動する。

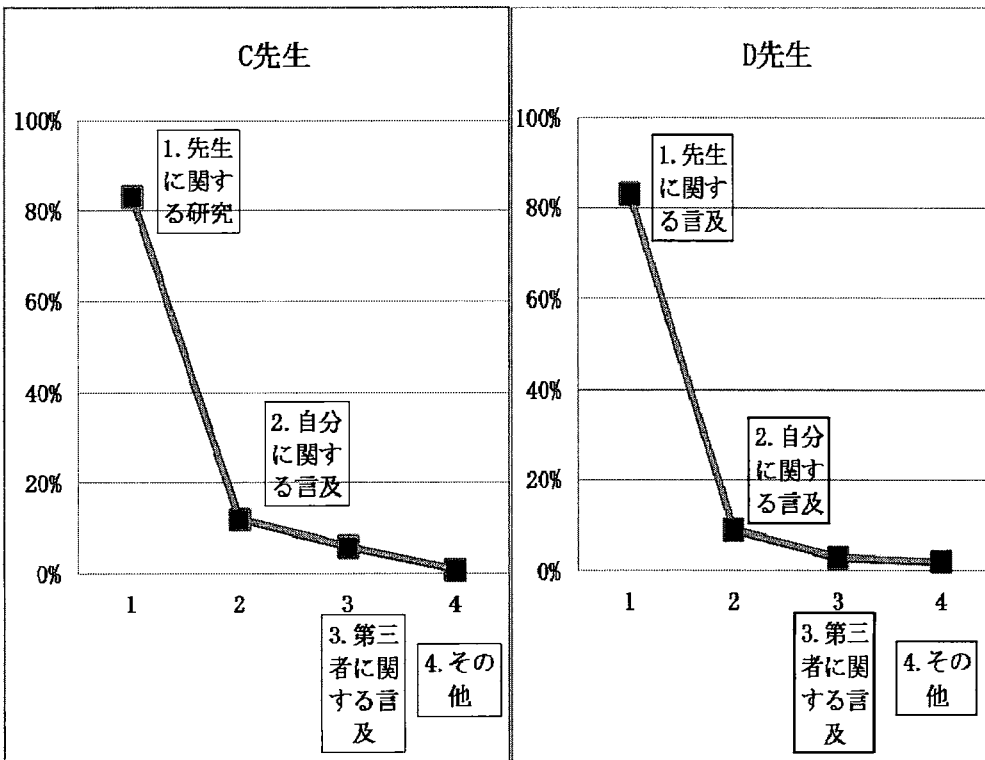
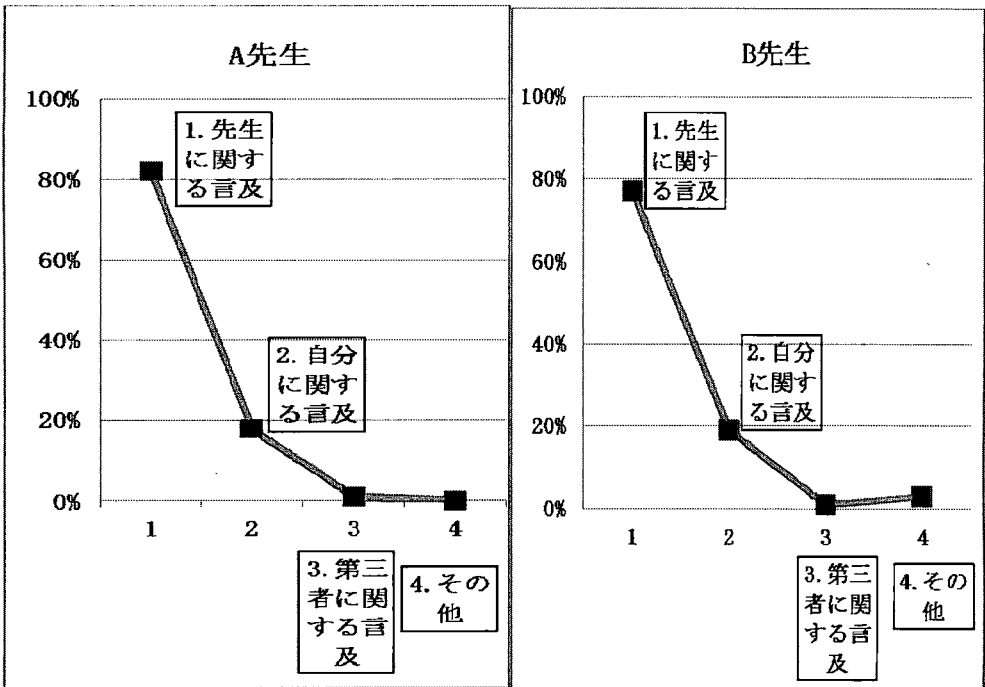
例文 21：老师，好久不见变化很大嘛
(先生、ご無沙汰しました。随分お変わりになりましたね)

⑬無言： 言わない、或いは言えない場面

4. 結果および考察

4.1. 「ほめ」方法ごとの使用比率

それぞれの「ほめ」対象に対して、「ほめ」に関する表現方法が必ずしも1つで使用されるというわけではなく、1ターンの発話の中で、同じ方法が繰り返し、または複数の方法が使用される。そこで、すべての場面において、4タイプの先生について、それぞれの「ほめ」方法の使用比率を取り上げた。次ページの<図2>の通りである。



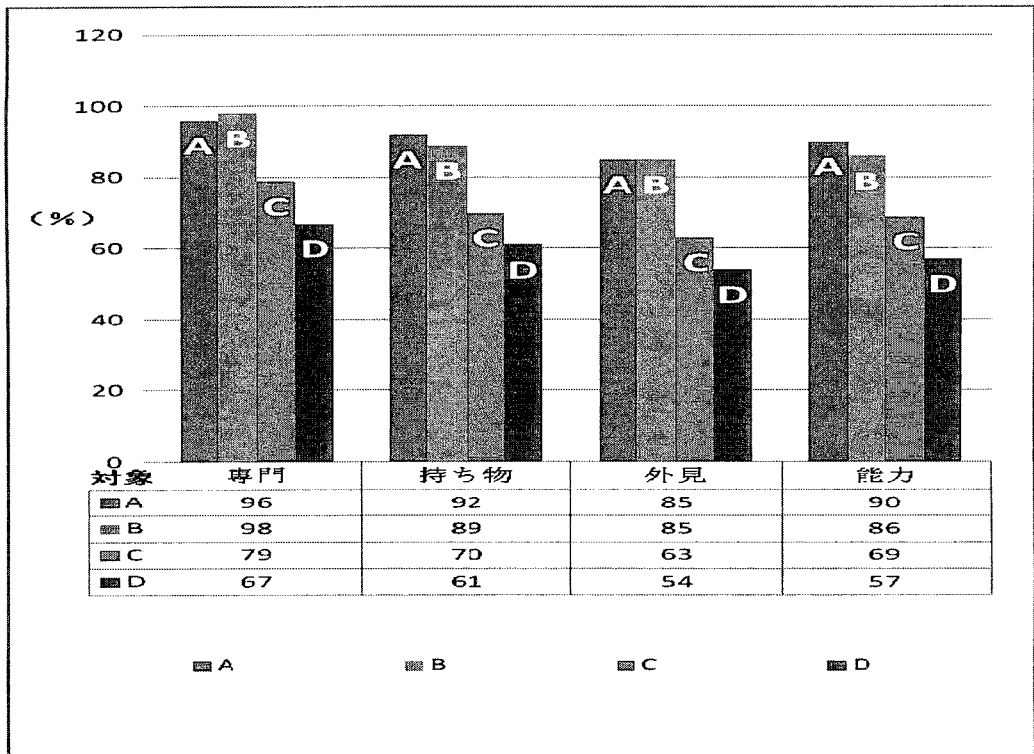
<図 2> 「ほめ方」のバリエーションを使用した比率

<図 2>は、A、B、C、D 各先生において、「ほめ方」のバリエーションの使用比率を表すグラフである。各場面とも、「先生に関する言及」、「自分に関する研究」、「第三者に関する言及」、「その他」の4つのバリエーションが使われている。また、先生に直接評価を与えたり、事実を客観的に述べたりするような「ほめ方」を「先生に関する言及」として扱い、どのタイプの先生の場合においても、圧倒的に多く使用された。例えば、A先生が82%、B先生が77%、C先生が83%、D先生が83%になっている。つまり、中国語母語話者は相手が目上の先生であっても、直接評価を与えるとといったような「ほめ」方法を多用することがわかった。次点となる「ほめ方」は「自分に関する言及」であり、使用比率はそれぞれ18%、19%、12%、9%となる。

4.2. 親疎・利害関係による「ほめ」行動への影響

<図 3>は、教員ごとの「ほめ」の使用比率をグラフで表したものである。親しくないC、D先生に比べて、親しいA、B先生のほうが、各「ほめ」対象において、「ほめ」表現の使用比率が85%以上を占め、高いことが分かった。しかも、A、B両先生の間にはあまり差がないことにより、親しければ、利害関係に影響されにくいことが考えられる。しかしながら、親しくないC、D先生の間にはやや差が認められることにより、親しかなければ、利害関係がある程度の影響力をもつことが推測できる。つまり、「利害関係」より「親疎関係」のほうがほめ行動に影響を与えやすいと判断でき、親しい目上に対して、「ほめ」表現の使用率が高くなっていると言える。さらに、ほめの対象別に考察した結果、「外見」よりも、「専門」・「持ち物」・「能力」のほうが「ほめ」表現に多く使用されている。つまり、「外見」といった表面的なものより、「専門」、「能力」、「持ち物」⁵に関する内面的なものをほめることが多いことが分かった。この結果は金ほか（2011：229）が指摘するように、「中国母語話者の場合、人の外見や持ち物といった表向きなものとは比べ、性格や遂行といった内面的なものをより重視するという文化的な特徴がうかがえる」という点と共通している。

⁵ 例えば、老师，您太时髦了（先生、とても流行していますね）／老师，越来越美啦（ますますきれいになってますね）／老师，眼光不错（先生、見る目があります）／老师，很有品位（先生、センスがいいです）／老师看去年轻好多（先生、若く見えます）等のように「持ち物」自体に対するほめより、相手の「センス」等の内面に関する「ほめ」行動が多く使われていた。



A 先生 (親・利) B 先生 (親・無) C 先生 (疎・疎) D 先生 (疎・無)

<図 3> 教員ごとの「ほめ」の使用比率

5. おわりに

本研究では、中国の大学生を調査対象者として、相手が目上である先生の場合、「ほめ」を意図とした発話を記入してもらい、その表現方法や表現形式について、分析・考察を行なった。その結果は、相手が目上であっても、「ほめ」行動の使用率は高いことがわかった。また、表現方法の中に、圧倒的に多く使われるのが「先生に関する言及」つまり、直接先生に評価を与えたり、事実を客観的に述べたりするようなストラテジーであった。さらに、先生との「親疎関係」「利害関係」に関して、その違いも認められた。例えば、「利害関係」よりも「親疎関係」のほうが、「ほめ」行動に影響を与えやすい。そのため、親しければ、「ほめ」行動の使用量が高くなる。しかし、親しくなければ、「利害関係」の有無が前景化してくることが分かった。このように、中国語母語話者

が人間関係を構築、維持、改善するために、「上下関係」、「親疎関係」、「利害関係」に配慮している様子が伺えた。

ところで、本調査の対象者は中国人の大学生のみである。しかし、中国社会の複雑な地域構成、階級差、年代差等により、条件をコントロールした社会人の調査も必要だと思われる。その理由は、大学生に比べ、社会人のほうが「利害関係」によって対人配慮が大きく影響される可能性が高いからである。それから、中国人の言語行動を特徴づける際、面子の概念と関連づけることは不可欠である。今後は、中国社会における「ほめ」文化を、ポライトネスと面子の概念と結びつけて考察していく必要がある。

また、「ほめ」行動はポライトネスの重要なストラテジーの1つであり、どのような言語でも存在し、様々な場面に用いられている。しかしながら、社会的文化背景や価値観、相手への配慮の仕方等により、異文化間において、「ほめ」行動に対する認識が異なると予想できる。例えば、日本社会において、「ほめ」行動は相手を評価するという性質を持つことから、目上に対する場合は配慮や制限が課せられる。しかし、大野(2003)によれば、相手が目上であっても、方法や表現形式の工夫によって「肯定的評価」や「好感情」の伝達が可能になるという。例えば、先生の授業に肯定なコメントをする場合に、日本人の学生は「大変勉強になりました。どうもありがとうございます」のように表現することが多い。このような、「ほめ」の表現自体の違いに関する対照研究は従来でも数多くあった。ところが、目上との間には実際さまざまな関係がありうる。その多様な関係の中で生じた「ほめ」行動について、その表現方法や表現形式の分析、さらにはポライトネスの観点から「ほめ」行動を総合的に分析するのは、今後の課題とする。

参考文献

<英語>

Brown, P. and S. Levinson (1987): *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge: Cambridge University Press.

<日本語>

金 庚芬(2005): 「会話に見られる『ほめ』の対象に関する日韓対照研究」。In: 『日本語教育』124号, 13-22.

- 金 庚芬・関崎 博紀・塔 娜・陳 臻渝 (2011) : 「東アジアの言語使用からみた対人関係調整上の志向性—日中韓モンゴルの「ほめ／けなし」場面を中心に—」. In: 『社会言語科学』第 14 卷第 1 号, 227-231.
- 大野 敬代 (2003) : 「人間関係からみた『ほめ』とその工夫について——シナリオにおける『働きかけ表現』として——」. In: 『早稲田大学大学院教育学研紀要 別冊』第 10 号-2, 337-346.
- 大野 敬代 (2009) : 「日本語母語話者と学習者の目上への『ほめ』のあり方」. In: 『早稲田日本語研究』第 18 号, 60-71.
- 陶 琳 (2009) : 「中国語における褒め言葉の返答に関する一考察」. In: 『言語文化論叢』13, 45-71.

< 中国語 >

- 陳 淑梅 (1999) : 「比较英国英语与汉语对赞美应答的异同—兼谈对英语教学的启示」. In: 『东南大学学报(社会科学版)』第一卷第三期, 104-110.
- 蒋 冰清 (2006) : 「英汉称赞语的语用特征分析」. In: 『哈尔滨学院学报』27 (11), 130-133.
- 权 立宏 (2001) : 「汉语中男性与女性在称赞语回应中的差异分析」. In: 『现代国语(季刊)』第 27 卷第 1 期, 62-69.
- 石 秀珍 (2004) : 「从恭维或赞美语论日常交际中中美文化的差异」. In: 『安康师专学报』第 16 卷, 57-59.
- 史 耕山 (2005) : 「汉语称赞语的性别研究」. In: 『北京科学出版社』, 4-12.
- 饶 斌 (2009) : 「英汉回应赞美语策略差异及原因分析」. In: 『四川理工学院学(社会科学版)』第 24 卷第 3 期, 103-105.
- 張 静 (2008) : 「英汉交际口语中赞美语比较初探」. In: 『科技信息』第 34 期, 296-297.